

【St. 10 (補助地点)】

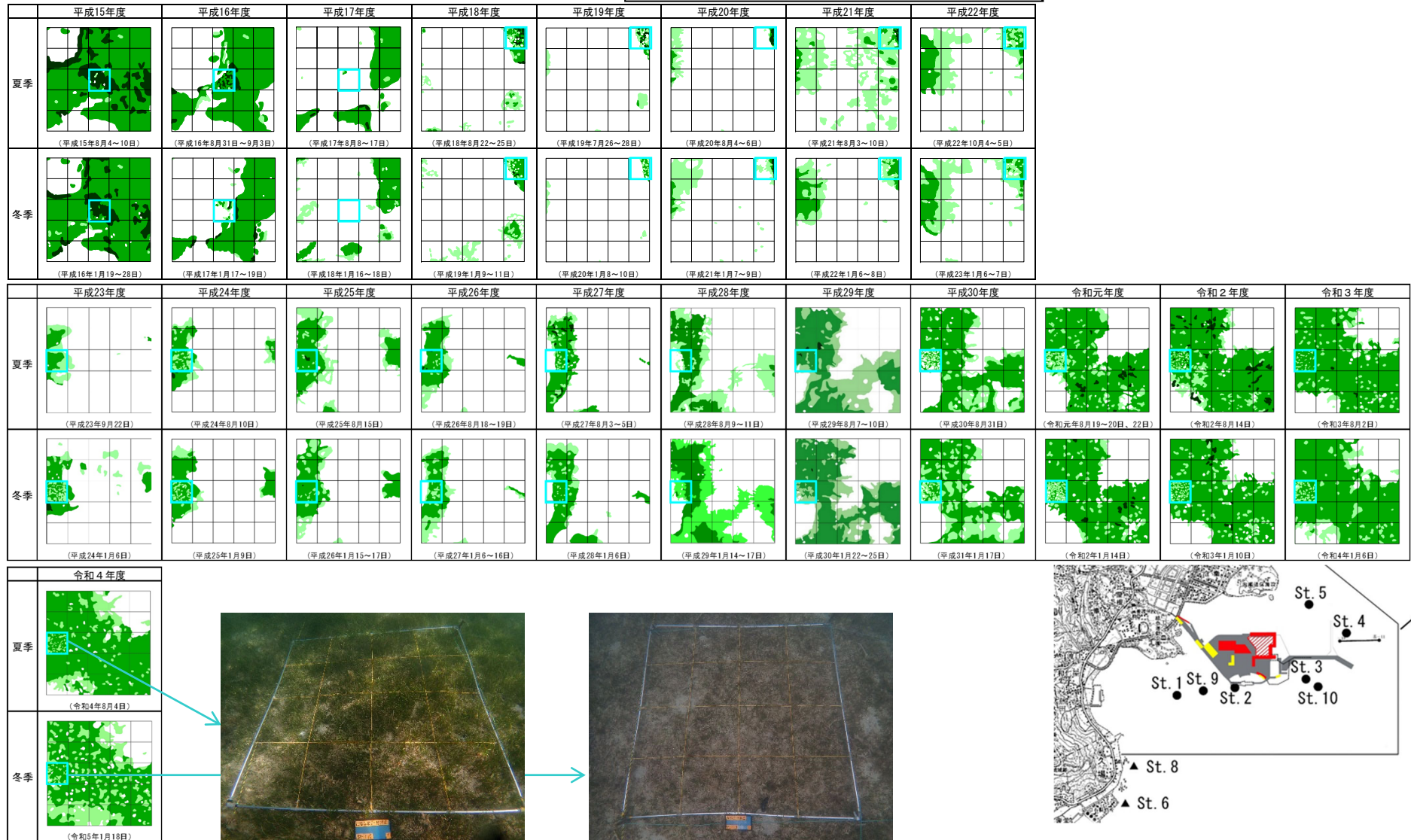


図 2.5.2(10) 各調査地点における過年度からの被度変化の状況

③ 周囲の環境変化について（調査地点と工事位置との関係）

広域藻場分布調査結果（図 2.5.10）に基づいて、大型海草藻場、小型海草藻場及びホンダワラ藻場の分布状況の変化について整理した。

ア. 大型海草藻場の変化状況について

泡瀬海域の大型海草藻場は、監視地点における生育被度の低下とともに、藻場全体においても長期的な面積の減少傾向が認められている。

大型海草藻場の面積は平成 18 年 11 月頃まで減少し、その後若干増加した後、平成 19 年度から平成 23 年度にかけて減少傾向であり、それ以降は概ね横ばいで推移している。令和 4 年 11 月は約 161ha であった。なお、被度 10～50% の面積は、平成 17 年度以降概ね 150ha 前後で横ばいの状態が続いていたが、平成 23 年 11 月に減少し、以降は横ばいとなっている。令和 4 年 11 月の調査結果では約 122ha であった（図 2.5.3）。

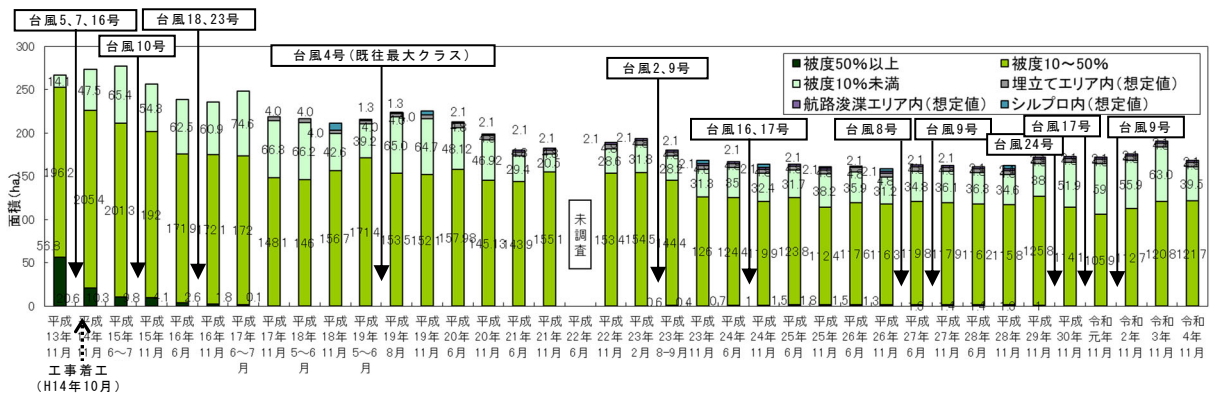


図 2.5.3 被度別の大型海草藻場分布面積の変化

- 注) 1. 埋立て及び航路浚渫により消失した藻場面積は、当該工事直前の調査時に確認されていた藻場面積と同じと想定し、以降の面積を「埋立てエリア内(想定値)」及び「航路浚渫エリア内(想定値)」として示した。これまでに、埋立エリア内では、平成 17 年 11 月に 4.0ha、平成 20 年 6 月に 0.8ha、航路浚渫エリア内では、平成 19 年 5～6 月に 1.3ha、平成 20 年 6 月～11 月に 0.8ha、計 6.9ha が消失したと考えられる。
2. 汚濁防止膜内の藻場面積についても、設置直前の調査時に確認されていた藻場面積と同じと想定し、設置期間中の面積を「シルプロ内(想定値)」として示した。
3. 平成 22 年度の結果は、環境現況調査結果である。

調査開始時（工事前の平成 13 年 11 月）と令和 4 年度（令和 4 年 11 月）における大型海草が優占する海草藻場の被度変化を図 2.5.4(1)に示す。被度が変化した部分は、減少した箇所、増加した箇所ともに工事区域付近に限らず広範囲かつパッチ状に散在している。

また、前年度（令和 3 年 11 月）と令和 4 年 11 月の被度変化を同様に整理した結果は図 2.5.4(2)に示すとおりであり、令和 4 年度に被度が変化した範囲は、減少域（図中で赤色系で示した範囲）、増加域（図中で緑色系で示した範囲）ともに分布域

の縁辺部で主にみられること、工事区域の近傍に限らず、埋立地の東西に広く散在していることから、高波浪による攪乱の影響を受けていると考えられた。なお、一部前年度から大型海草藻場から小型海草藻場に区分が変化した箇所がみられたが、藻場面積について、その藻場の優占種から藻場の区分（大型海草、小型海草）を判定し、区分ごとに面積を計上しているところ、今回は一部の大型海草と小型海草が混在している地点で優占種が小型海草類となったことで、面積を小型海草藻場として計上したことにより、大型海草藻場としては面積が減少したと考えられる。

前記の②（各調査地点における被度変化の状況）に示したとおり、被度の低下は、長期的な傾向として認められていること、広域藻場分布調査の結果からも工事区域付近に限らず広範囲に及んでいることから、被度低下の要因が工事の影響や埋立地の存在によるものである可能性は低いと考えられる。

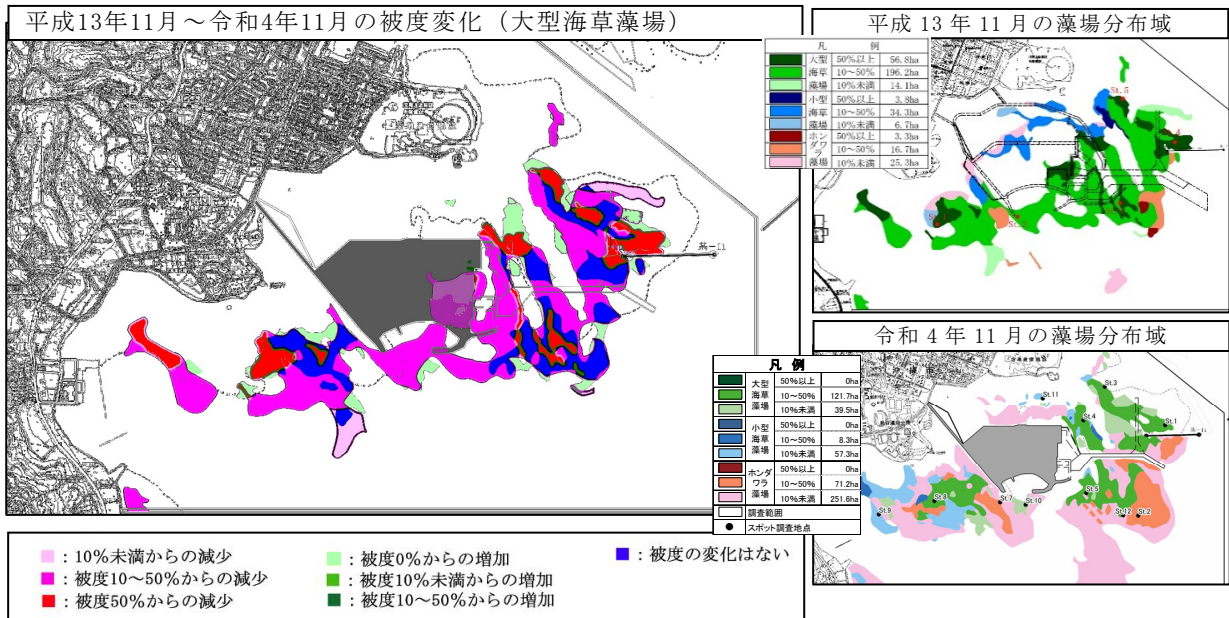


図 2.5.4(1) 大型海草藻場の被度変化（平成13年11月～令和4年11月）

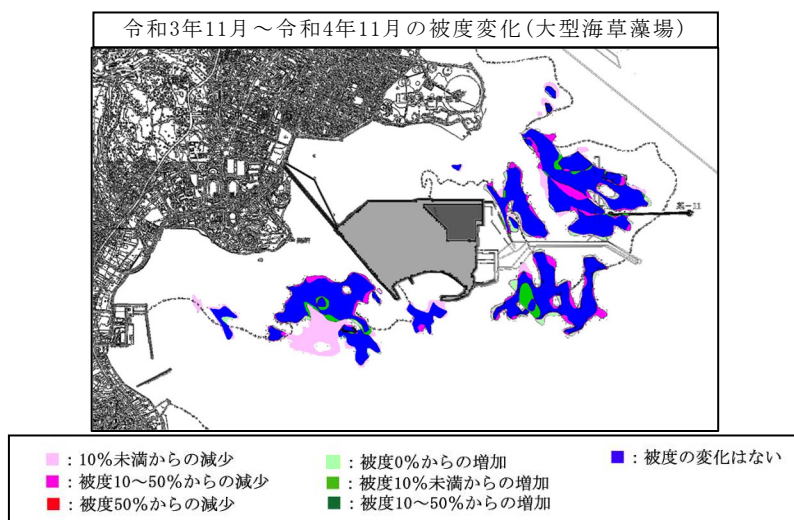


図 2.5.4(2) 大型海草藻場の被度変化（令和3年11月～令和4年11月）

イ. 小型海草藻場の変化状況について

一般に、小型海草藻場は夏季にかけて面積を拡大し、冬季にかけては減少するため、大型海草藻場に比べて年間での消長が大きいこと、台風の来襲に伴う底質の攪乱による影響を受けやすいことなどから、分布面積が変動しやすいと考えられる。令和4年11月は約66haと前年度から大きく増加していたが、これは一部の大型海草と小型海草が混生する箇所において、優占種が大型海草から小型海草に置き換わったことで、藻場区分が変化したことによるものと考えられた(図 2.5.5、図 2.5.6)。

(小型海草藻場)

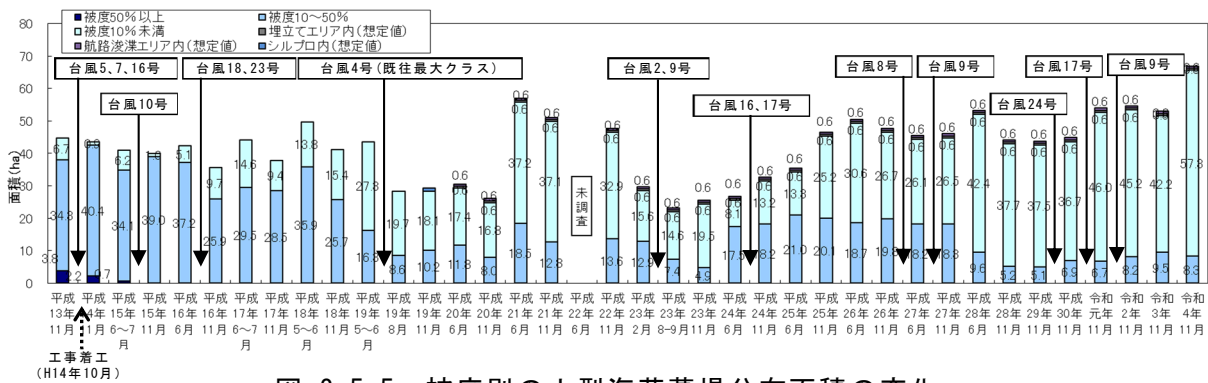


図 2.5.5 被度別の小型海草藻場分布面積の変化

- 注) 1. 埋立てエリア内、航路浚渫エリア内及びシルプロ内(汚濁防止膜内)の藻場面積については、大型海草藻場(図 2.5.3)と同様の想定により整理を行った。これまでに、平成20年6月に埋立てエリア内で0.6ha、航路浚渫エリア内で0.6ha、計1.2haが消失したと考えられる。
2. 平成22年度の結果は、環境現況調査結果である。

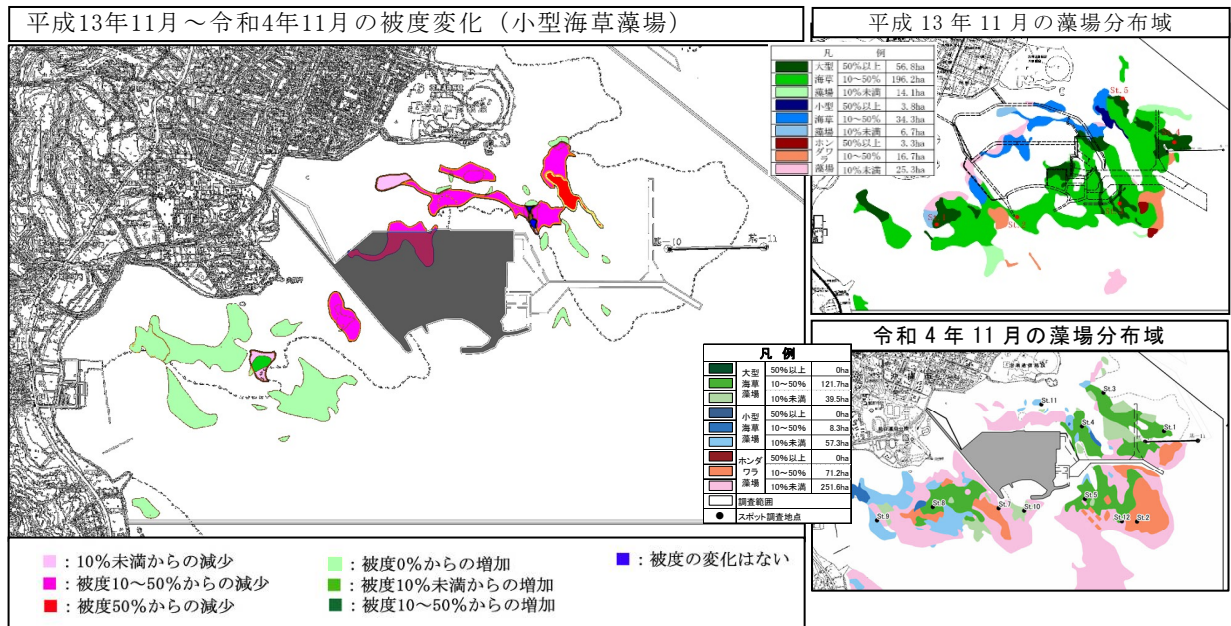


図 2.5.6(1) 小型海草の被度変化（平成13年11月～令和4年11月）

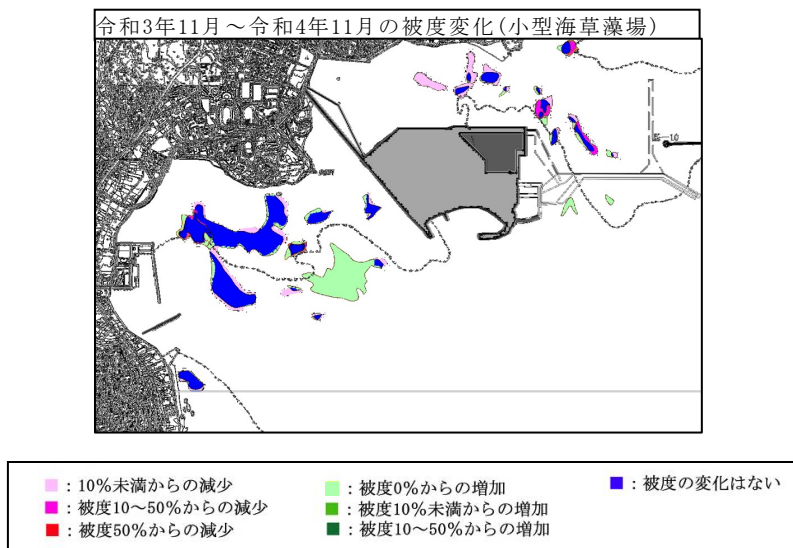


図 2.5.6(2) 小型海草藻場の被度変化（令和3年11月～令和4年11月）

ウ. ホンダワラ藻場の変化状況について

ホンダワラ藻場の面積は、調査を開始した平成13年11月から平成18年11月までは増加傾向にあったが、平成19年度に100ha程度にまで減少した後、平成20年度以降は90~180haの範囲で変動し、平成24年度以降に増加傾向を示し、平成29年度にピークに達して以降は300ha前後を維持している。令和4年11月は約323haであった(図2.5.7)。

(ホンダワラ藻場)

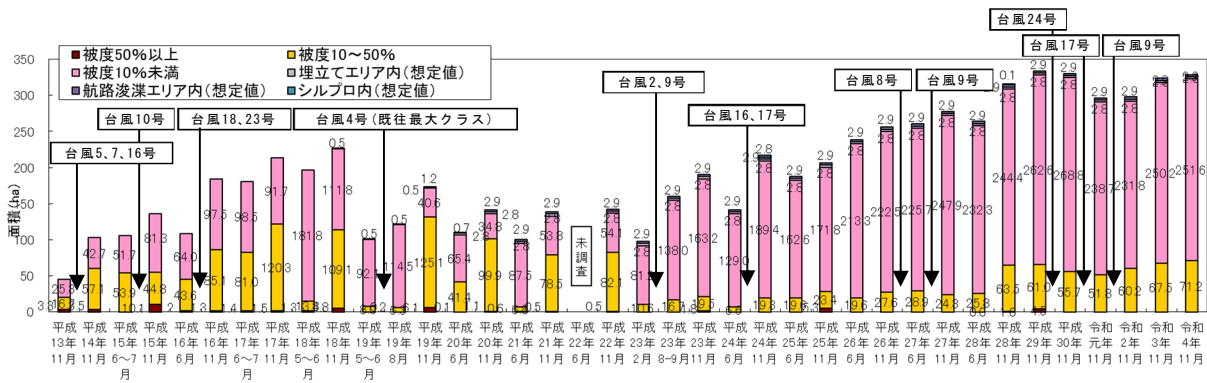


図 2.5.7 被度別のホンダワラ藻場分布面積の変化

- 注) 1. 埋立てエリア内、航路浚渫エリア内及びシルプロ内(汚濁防止膜内)の藻場面積については、大型海草藻場(図2.5.3)と同様の想定により整理を行った。これまでに、平成18年11月に埋立てエリア内で0.5ha、平成20年6月に2.3ha、航路浚渫エリア内で平成20年6月に0.7ha、平成20年11月に2.2ha、計5.7haが消失したと考えられる。
2. 平成22年度の結果は、環境現況調査結果である。